

2005年12月アルゼンチンの政治情勢

2006年1月作成
在アルゼンチン大使館

1. 概要

ミセリ経済相、タイアナ外相、ガレ国防相及びナダリッチ社会開発相の新4閣僚、10月議会選挙で当選した新議員、アルトゥーロ・コロンビ新コリエンテス州知事が、それぞれ就任した。また、政府は、臨時議会を招集して、2006年予算法案等の重要法案を可決成立させた。

外交面では、キルチネル大統領のメルコスール首脳会合出席、亜・伯・ベネズエラの三者首脳会談、ガレ国防相のベネズエラ訪問、亜・チリの共同平和維持軍創設に関する合意文書署名等が行われた。

2. 内政

(1) 新閣僚就任

1日、ミセリ経済相、タイアナ外相、ガレ国防相及びナダリッチ社会開発相がそれぞれ就任した。

(2) 新議員就任

(イ) 11月29日に上院において、12月6日に下院において、10月23日の議会選挙(上院改選議員:24、下院改選議員:127)で当選した新議員の宣誓式が行われた。

(ロ) 下院においては、警察幹部であった当時の拷問等の人権侵害疑惑により、ブエノスアイレス州選出下院議員に当選していたパティ連邦統一党党首の宣誓が承認されなかった。同案件は、今後、下院の規則委員会で審議が継続される。

一方、10月議会選挙で、野党・中道右派連合「共和国提案」から当選したロレンソ次期下院議員は、キルチネル大統領派に鞍替えすることを発表したため、野党等が議会下院に対してロレンソの就任を認めないよう要請していたが、下院本会議は、同要請を拒否したため、ロレンソは宣誓し下院議員に就任した。

(ハ) 10日、手続き上の遅れにより一部の就任が遅れたが、ほぼ全ての新議員が正式に就任した。

(ニ) 下院議長には、バレストリーニ新下院議員(前ブエノスアイレス州マタンサ市長)が就任した。なお、上院議長は、副大統領が兼任することになっているため、変更は無い。

(3) ビエルサ前外相の下院議員就任を巡る問題

(イ) 10月23日の議会選挙において、ビエルサ前外相は、ブエノスアイレス市選出下院議員に当選した。

(ロ) 6日朝、同前外相は、キルチネル大統領の意向を受けて、在仏大使に就任するため、下院議員就任辞退を発表した。

(ハ) 7日夜、同前外相は、有権者や野党の批判を受けて態度を一転させて、同決定を撤回して再び下院議員に就任する旨発表した。

(ニ) 14日、ビエルサ前外相は、下院において宣誓して下院議員に就任した。

(4) 臨時議会召集

(イ) アルゼンチン議会の通常会期は、3月1日から11月30日までであるが、7日、大統領令が発出され、12月12日から30日まで臨時議会が召集されることになった。

(ロ) 同臨時議会では、23の議題が扱われ、2006年予算法案、緊急経済法延長法案、教育財政法案等が可決成立した。

(5) 司法審議会改革法案

(イ) 臨時議会において、下級審判事の人事権及び懲戒権、司法行政、司法予算の行使等を扱う司法審議会の改革法案が審議された。同法案は、クリスティーナ上院議員（大統領夫人）が推していたものであるが、審議会メンバー構成等を変えて、行政府の関与を強めることになるため、司法の独立を脅かすとして主要野党が一斉に反対した。

(ロ) 22日、上院において、同法案が可決した。

(ハ) 当初、政府は、年内の同法案可決成立を目指していたが、今のところ、年内に下院の過半数129議席を抑えることは困難であり、2月に再び臨時議会を召集して、可決成立まで持ち込みたい構えである。

(6) 急進党（最大野党）党首交代

(イ) 1日、最大野党・急進党の執行部を選出する選挙が行われ、イグレシアス下院議員（前メンドサ州知事）が、ロサス急進党党首（次期チャコ州選出下院議員）の後任として、新党首に選出された（任期は2007年まで）。

(ロ) イグレシアスは、新党首選出後、「急進党が独自の形で政治を行うためには、改革が必要である。急進党は、社会が政府とは違う選択肢を有するために、強く明確な野党になるだろう」等と述べた。

(7) 各州知事の動向

(イ) 2日、ティエラデルフエゴ州議会は、予算不正使用疑惑により同州知事職の停止処分を受けているコラソ氏を罷免すると共に、今後4年間の公職就任禁止を決定した。

(ロ) 10日、10月2日のコリエンテス州知事選挙で当選したアルトゥーロ・コロンビ氏が、同州知事に就任した。

3. 外交

(1) メルコスール首脳会合

(イ) 8-9日、キルチネル大統領は第29回メルコスール首脳会合に出席するため、ウルグアイを訪問した。キルチネル大統領は、8日夕方にウルグアイに到着し、バスケス・ウルグアイ大統領主催の晩餐会に出席し、9日に首脳会合に出席した。

(ロ) キルチネル大統領は、首脳会合での演説の中で、ベネズエラのメルコスールへの正式加盟に歓迎の意を表明し、画期的な一歩であると評価した。但し、ベネズエラは、正式加盟手続きが残っており、正式加盟手続き中の扱いとなる。

(ハ) また、キルチネル大統領は、演説の中で、先般のベネズエラ議会選挙の結果について、チャベス大統領の正当な勝利であると祝意を表明した。

(ニ) その他、首脳会合においては、メルコスールがWTO香港閣僚会合の場で共通の立場で先進国の農業補助金撤廃を求めることその他、口蹄疫撲滅プラン、メルコスール議会創設に関する合意等がなされた。

(ホ) 今般の首脳会合において、ドウアルデ・メルコスール常設委員会委員長（前亜大統領）が2年の任期を終え、アルバレス新委員長（元亜副大統領）が就任した（任期は2年）。

(ヘ) 2006年上半期、亜が議長国となる。

(2) 伯及びベネズエラ

(イ) 9日、キルチネル大統領、ルーラ伯大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領は、メルコスール首脳会合の機会を利用して三者会談を行い、3ヶ国を結ぶ6000Kmに亘るガスパイプライン建設計画に関するF/S実施に関する合意文書に署名した。

(ロ) また、キルチネル大統領とルーラ伯大統領は、エネルギー分野における二国間協力に関する合意文書に署名した。デビード公共事業相は、亜が伯に対して06-08年の夏に天然ガスを供給し、替わりに伯が亜に対して同時期の冬に電力を供給すると説明した。

(ハ) 12-16日、ガレ国防相（前在ベネズエラ大使）はベネズエラを訪問し、ランヘリ・ベネズエラ副大統領、マニグリア・ベネズエラ国防相等と会談した。両国防相は、亜がベネズエラの有するライフル銃FALの修理に協力する可能性について話し合った。

(3) ボリビア

(イ) 18日、ボリビア総選挙が実施され、エボ・モラレス・ボリビア大統領候補（MAS党首）が当選した。就任は、2006年1月22日。

(ロ) 18日夜、キルチネル大統領は、エボ・モラレス候補に電話し、同候補の勝利を祝福した。

(ハ) エボ・モラレス・ボリビア次期大統領は、同選挙前に、ボリビアの天然ガス価格の値上げを検討すると発言しており、亜では、ボリビアから亜への輸入天然ガス価格の引き上げが懸念されている。

(二) 19日、ボリビア大統領選挙の監視団の一員として、ボリビアを訪問していたアルバレス・メルコスール常設委員会委員長（元亜副大統領）は、亜に帰国して記者会見を開いた。同会見において、同委員長は、「今回の選挙結果は、歴史的なものである」、「ボリビアが、メルコスールに正式に加盟することは良いことであろう」等と述べた。

(4) 亜外交政策

(イ) 25日、亜外務省は、タイアナ外相が、亜外交の主要目標の一つとして、在外の亜大使館に対して、2006年、大幅な輸出増加のためのビジネスチャンスを見出すよう引き続き指示した旨のプレスリリースを発出した。

(ロ) 亜外務省の目標の一つは、前年比で17%増となる2005年の輸出総額約403億ドルを超えるよう努めることである。

(ハ) タイアナ外相は、「2006年は、亜が持続的な経済成長を強化する年となり、富の分配を改善するための重要な一歩となるであろう」等と述べた。

(5) チリ

(イ) 27日、アルゼンチン国防省において、ガレ国防相とラビネ・チリ国防相が会談を行ない、共同平和維持軍創設の合意文書に署名した。

(ロ) 同軍は、国連の要請に応じて活動し、来年中頃にハイチで活動を開始する予定。

(6) 要人往来

(イ) 来訪

12月26－27日 ラビネ・チリ国防相

(ロ) 往訪

12月6日 デビード公共事業相の訪米（米州評議会での講演）

12月8－9日 キルチネル大統領のウルグアイ訪問（メルコスール首脳会合出席、タイアナ外相同行）

12月12－14日 アルベルト・フェルナンデス首相及びミセリ経済相の西訪問（西政府関係者及び企業関係者等と会談）

12月12－16日 ガレ国防相のベネズエラ訪問（ランヘリ副大統領等と会談）

12月13－18日 タイアナ外相の香港訪問（WTO閣僚会議出席）